

## 編集後記

◇『甲府市史研究』第二号をお届けします。

本号の頁数は、当初の予定を超える原稿が寄せられたため、前号を大幅に上廻るものとなりました。論題が各時代を網羅していることもあり、掲載順序は、概ね時代ごとにしました。

◇投稿は二編。飯沼氏「戦国期の都市『甲府』」は、中世甲斐府中の都市構造の復元・分析を試みた注目すべき論考です。柿島氏には、甲府空襲で知られていない『秘話』を寄せていただきましたが、「市史の広場」にふさわしいといえましょう。

今後も、研究者はじめ市民皆様からの投稿を期待しています。

◇市史編さん委員会では現在、来年に発刊が迫った『近世史料編』(町方)を準備中です。そんな中で、近世部会の飯田、村上、斎藤(典)の各委員には、本号原稿をも執筆願い有難うございました。

◇伊藤、秋山両委員共同執筆による「勝善

寺仏像調査報告』は、この夏行つた社寺調査からのものですが、甲府に数少ない南北朝時代の仏像で、しかも胎内に、二千字に及ぶ銘文が発見されて、緊急の報告を願つたものであります。執筆期間が少なく大変ご無理を申しました。

◇『市史研究』の眼目のひとつに、編さん史(資)料の調査・研究報告がありますが、前記のほか、服部、斎藤(典)、斎藤(康)各氏の論考、及び拙稿がそれにあたります。なかでも、本誌編集委員でもある両斎藤委員には、前号に引き続き史料調査の成果を発表願いました。両委員の精力的なご活躍に敬意を表します。

◇市史編さん事業では実に多くの方々にご協力をいただいております。事業開始以来、史(資)料の提供者は一五七人、整理した文書等は、二万点を超えております。所蔵者の方々はじめご協力願つた皆様には改めて御礼申し上げ、これからも変わぬご支援をお願いする次第です。

(高木)

## 甲府市史研究

第2号

編集 甲府市市史編さん委員会

発行 甲府市役所市長室

〒400 甲府市丸の内一丁目18-1

☎ 0552 (37) 1161 内線 315

発行日 昭和60年11月1日

印刷 株式会社 少国民社

(題字 甲府市長 原 忠三)